

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

製本工房トントン

昭和53年に前川図書館が開催した「製本講習会」に参加した方々が、講習会終了後に勉強会を作ったのがきっかけで発足。現在36人の会員で、市内図書館の壊れた本の修理・製本をボランティアで行っている「製本工房トントン」を岡村市長が訪問。活動内容などについて聞きました。



市長 みなさんこんにちは。いよいよ風薫る5月になり、屋外での活動が楽しくなる季節を迎えました。今月の市長のふれあい訪問は、「製本工房トントン」のみなさんです。どうぞよろしくお願いいたします。始めに会長の澤田さんにお聞きしますが、この会はどのようなことを行っているのですか。

澤田 市内図書館所蔵の壊れた本を直しています。年間で約700冊の本を修理・製本していますが、修理が追いつかないのが現状で、修理待ちの本がたくさんあります。

市長 修理されるのは、どのような状態の本のですか。

松山 一冊ずつ違います。1ページだけ外れてしまった状態の本や、一冊全てがバラバラになっちゃった本を一から作り直すこともあります。

市長 修理には個々に担当があるのですか。

塚崎 一冊の本の修理・製本を一人がすべて担当します。私は、



始めて5年になります。月に1・2冊しか修理することができません。

市長 月にどれくらい活動されているのですか。

永草 毎週、水・木曜日の10時から前川図書館で作業をしています。

市長 どのように製本するのか教えていただけますか。

澤田 劣化した古い資料などは、1度バラバラにして製本し直します。

上野 背表紙を和紙で補強し、糸でかがったりもします。

市長 入会したきっかけはなん

ですか。

佐野 「広報かわぐち」で、製本講習会開催の記事を見て参加したことがきっかけです。みなさんが真剣に本の修理・製本をする姿を見て、私も参加するようになった。

塚崎 小学校で読み聞かせのボランティアをしています。その学校図書室の本の傷みが激しく、何とかならないものかと思っていたところ、このような活動をしている団体があることを知り参加しました。読み聞かせとは違った形で本と接することができるので、また違った楽しみがあります。

市長 本の傷みは、やはり読む側のマナーの問題でしょうか。

松山 修理する本の中には、メモ書きや、落書きされているものを見かけます。中には破かれていたりする本もあります。

市長 破れていた場合、どのように修理するのですか。

澤田 ほかの図書館に同じ本があれば、材質の似た紙に複写し、ページそのものを差し替えます。

佐野 破れていた場合は、セロテープなどで補修せずに、図書館に連絡していただけたらと思います。

永草 よく読まれる本ほど壊れるものだと思います。修理をしていますが、図書館で借りた本も自分で購入した本と同じように接してほしいと思います。

市長 最後に今後の抱負などがありましたらお聞かせください。

澤田 市内の図書館では、7カ月以上修理待ちになっている本もたくさんあります。できれば、全ての図書館に修理室があつて、壊れた本をすぐに修理できる体制がつくれたらと思っています。

市長 30年以上ボランティアで、図書館の本を修理・再生して下さっているみなさんの活動を市民の方が理解し、借りた本を大切に読んでいただけたらと思います。今日はありがとうございました。

